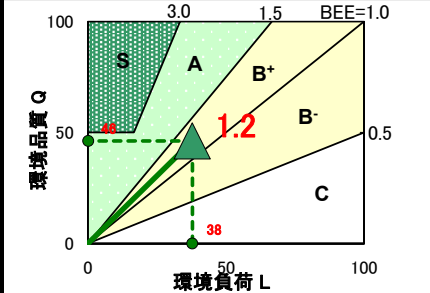
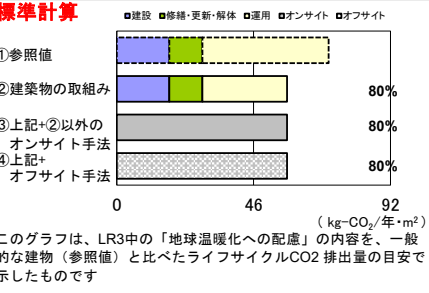
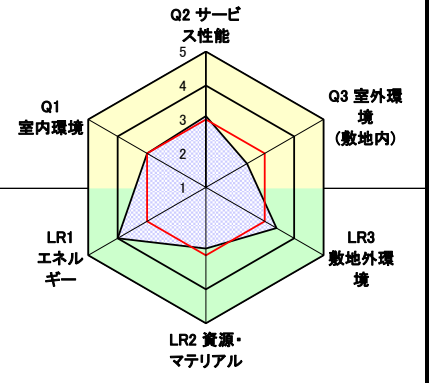
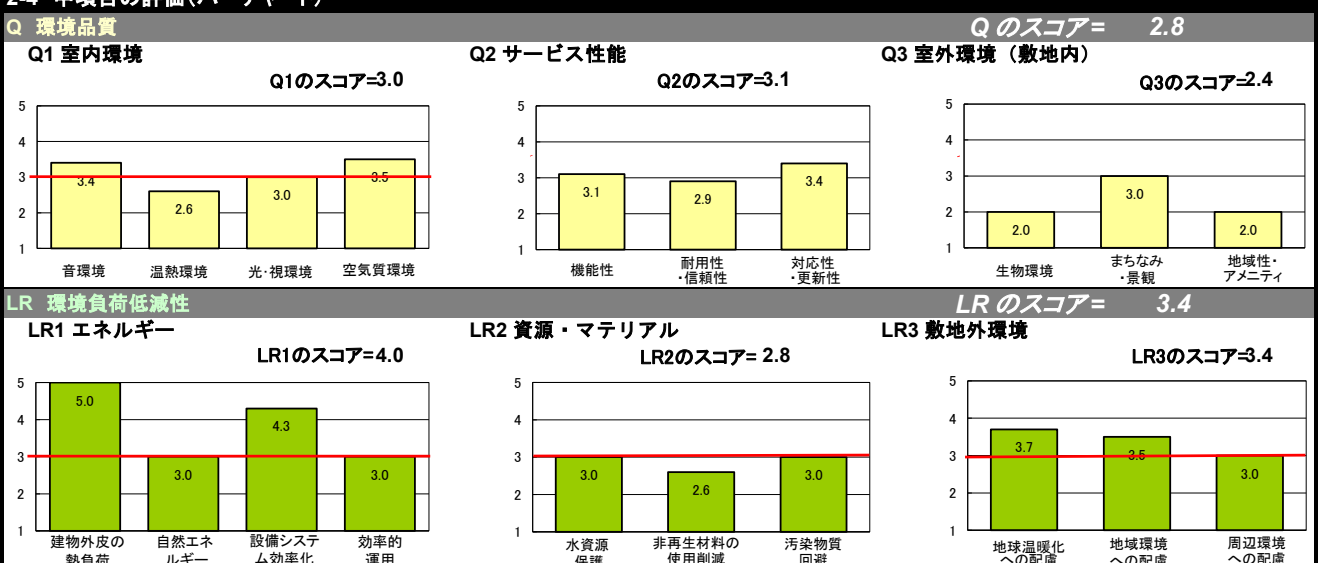


CASBEE®名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE 最新版(2016年9月改定、その後の改訂は別冊「CASBEE 改訂履歴」を参照)

評価結果

使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)三浦電気株式会社 名古屋支社 新築工事	階数	地上2F
建設地	愛知県名古屋市中区善通寺570番、571番の一部	構造	S造
用途地域	準防火地域	平均居住人員	147 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,684 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年10月 予定	評価の実施日	2026年7月8日
敷地面積	7,335 m ²	作成者	
建築面積	2,429 m ²	確認日	2026年7月8日
延床面積	4,460 m ²	確認者	
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	
BEE=1.2 ★★★★★★☆☆☆☆		☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆	
S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★		30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆	
			
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)		2-4 中項目の評価(バーチャート)	
			
3 設計上の配慮事項		その他	
総合 採用する仕上材や設備に配慮することで、施設の維持・更新をしやすいつくりとなっている。		特になし	
Q1 室内環境 F☆☆☆☆の材料を使用している。		Q2 サービス性能 更新必要間隔の長い材料(ビニルクロス)を使用している。	
Q3 室外環境(敷地内) 周囲の建物と高さや形状が調和する外観である。		LR1 エネルギー LED機器などの採用により、BEI=0.67 である。	
LR2 資源・マテリアル 躯体材料と仕上げ材が容易に分別できるようにしている。		LR3 敷地外環境 自転車駐車場や荷捌き車両の駐車施設の確保をしている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

(仮称) 三浦電気株式会社 名古屋支社 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.9
LR1	エネルギー	4.1	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.109828962	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.010982896	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.054914481	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.9



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 2.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。